

平成30年度の全国学力・学習状況調査について、本校の結果と今後の取組についてその概要をお知らせいたします。帯広全体の結果については、帯広市ホームページに掲載されておりますので、参考にしてください。

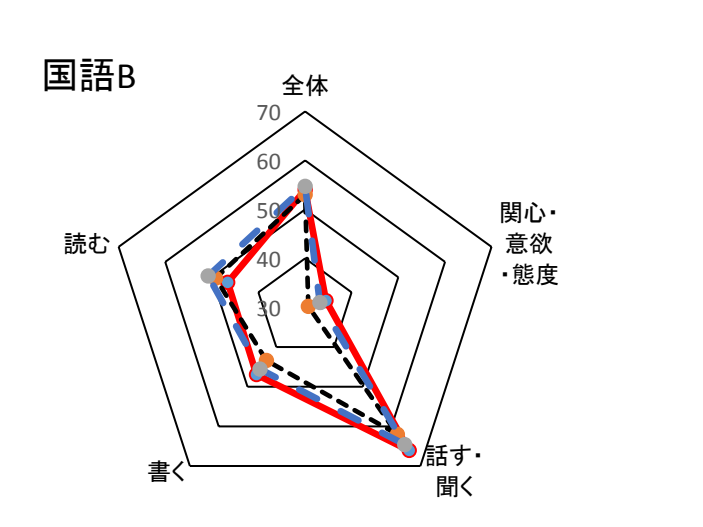
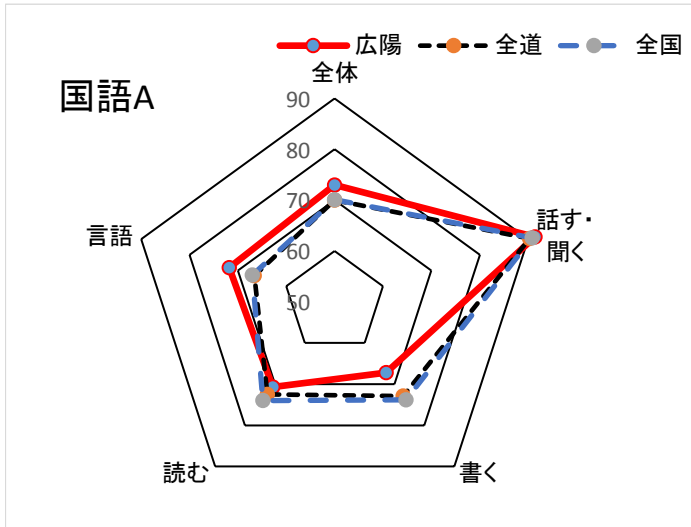


<国語A> …主として知識に関する問題

正答率は、全道・全国平均を上回りました。領域別にみると、「話す・聞くこと」において昨年度より大きく上回るとともに、これまでの課題であった「読むこと」において全国平均との差が大きく縮まりました。「書くこと」については、昨年度より正答率は高くなったものの、全国平均との差があるため、今後の課題となりました。

<国語B> …主として活用に関する問題

正答率は、全道・全国平均とほぼ同じ状況でした。領域別では、「関心・意欲・態度」、「話す・聞くこと」「書くこと」の三領域で全国平均を上回りました。特に「書くこと」は、昨年より大きく上回りました。「読むこと」において全国平均、全道平均を下回ったため、今後も継続して指導の重点としていきます。

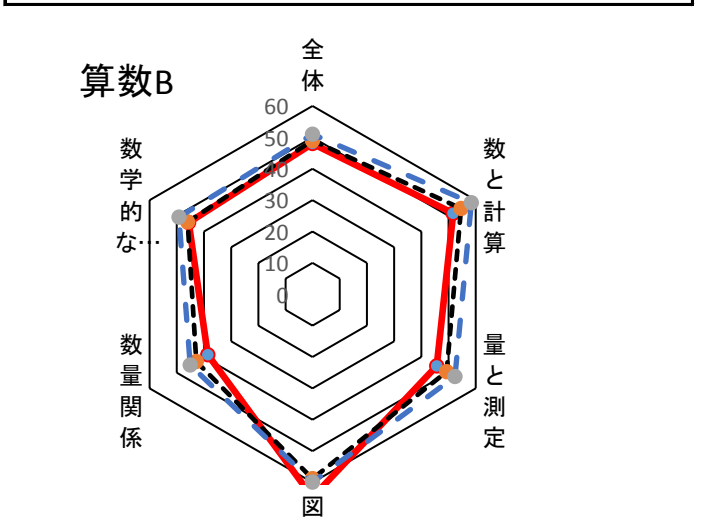
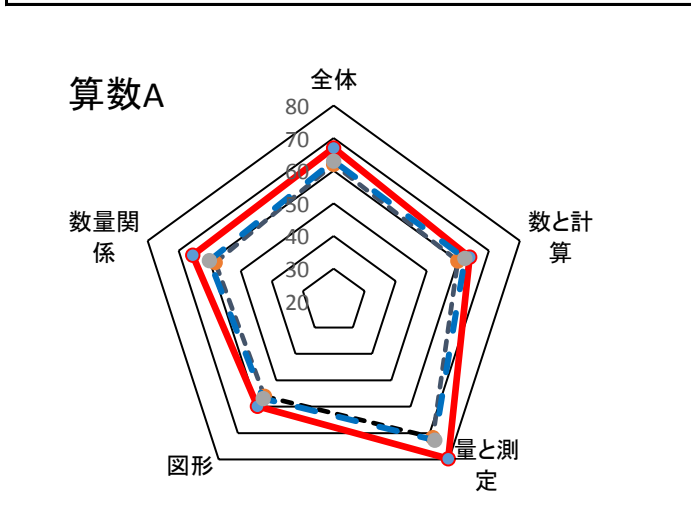


<算数A> …主として知識に関する問題

正答率は、全道・全国平均を上回りました。「数と計算」は全国平均とほぼ同じでしたが、「量と測定」「図形」「数量関係」領域において全国平均を上回りました。特に、これまでの課題であった「図形」においての理解定着が高まりました。今後、基礎的な内容と活用の相関性を分析していき指導に活かします。

<算数B> …主として活用に関する問題

正答率は、全国平均をやや下回り、全道平均とはほぼ同じ状況でした。すべての領域で正答率が上昇し、昨年度と比較して全国平均との差が大きく縮まり、近づきました。算数Aでは課題となった「図形」領域が高いという結果がみられ、今後更に要因を分析し、定着を図る必要があります。

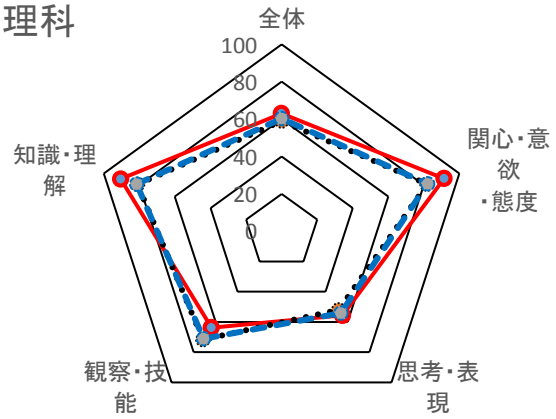


<理科> 3年ぶりの調査となりました。

正答率は、全道・全国平均を上回りました。領域別では、特に「関心・意欲・態度」と「知識・理解」において高い正答率で全国平均を大きく上回りました。「科学的な思考・表現」はほぼ全国平均と同様でしたが、「観察・実験の技能」においては、全国平均を下回りました。今後も、実験、体験的な活動の目的や結果の定着を図るよう授業改善を進めていきます。

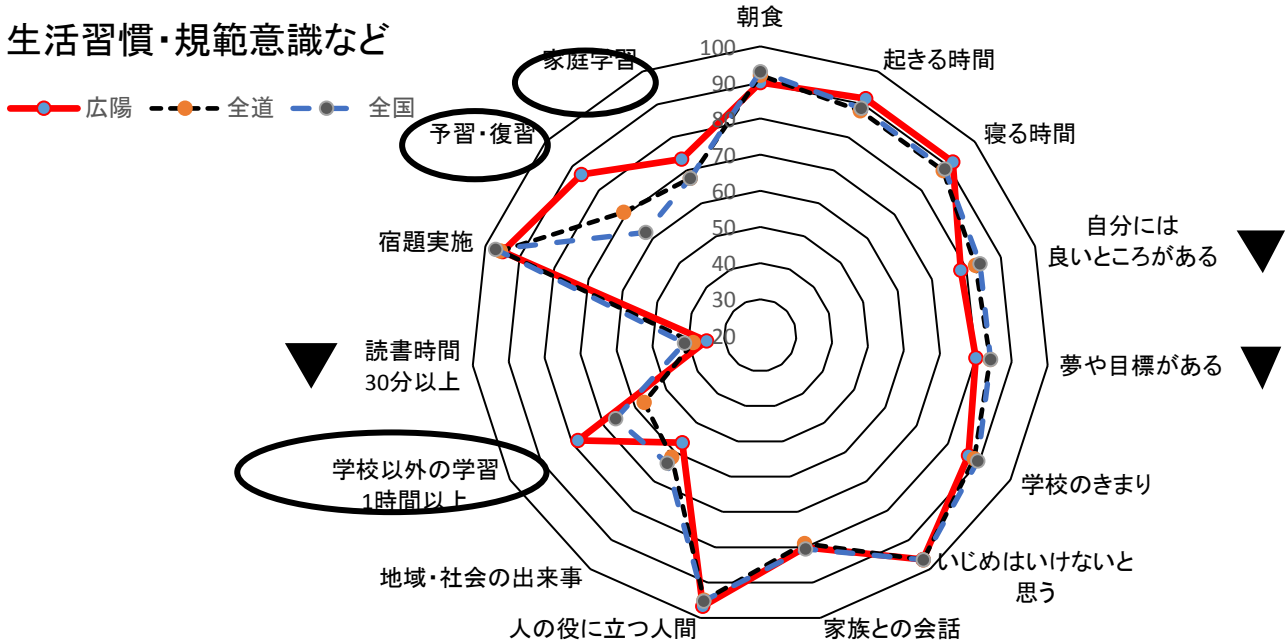


理科



<児童質問紙の回答から>

生活習慣・規範意識など



起床、就寝時間、朝食などの生活リズムはこれまで同様しっかりと身につけています。特に宿題、予習復習など家庭学習の時間が大きく伸びましたが反面、読書の時間は全国と比較しても課題となりました。規範意識や夢や希望などは今後も道徳科をはじめ、教育活動全体で培っていく必要があります。



【今回の結果を受けて これからも学校全体で取り組みます。】

「全員がわかる、できる授業」を目指し、日常の授業改善に努め、基礎・基本の定着を軸にした取組を行います。

- ①国語、算数をはじめ全ての教科や活動で主体的に考え、豊かに表現できる児童の育成に努めます。
- ②特に算数科では、習熟度別学習や個別指導を進め、充実を図っていきます。
- ③道徳科の授業を中心として規範意識や自己有用感、所属意識等を更に高めます。
- ④読書活動の推進や書く、伝え合う活動を通して、語彙力を高め、学び合いの時間を大切にします。
- ⑤学習規律を徹底・定着することにより、落ち着いた学習環境作りを継続します。
- ⑥各家庭やエリアファミリーの連携をより充実させ、家庭学習の習慣化、内容の改善、ゲームやTVの視聴時間の短縮、読書の時間の充実に繋がります。

その学年での学習内容を確実に身につけることができるよう、学校として力を尽くしていきます。



